

第 8 回

ユ ニ ッ ト ケ ア

全 国 セ ミ ナ ー

現場が動き、
現場で変える
「利用者のその人らしい暮らし」

施設が変わる「職員研修」
進化するユニットケアの「ケアプラン」
地域密着とユニットケア

【日時】 2006. 7. 1(sat) - 2(sun)

【会場】 三重県営サンアリーナ

【主催】 「第8回ユニットケア全国セミナー」 実行委員会

分科会特別企画 徹底討論

ユニットケアという幻想 × 大逆転の痴呆ケア × パーソンセンタードケア

高口光子

和田行男

高橋誠一

特別シンポジウム「選ばれるユニットケア施設となるために」

全国有数の介護施設と福祉に取り組む町で有名な…坂本 昭文(鳥取県南部町 町長)
特養ホームが変わる、特養ホームを変えるで有名な…本間 郁子(特養ホームを良くする市民の会 理事長)
認知症の人を「地域」で支えるまちづくりで有名な…大谷るみ子(大牟田市認知症ケア研究会 代表)
住民の流儀で助け合いを掘り起こすことで有名な…木原 孝久(住民流総合福祉研究所 所長)
4人の「えにし」をつなぐ…大熊 由紀子

第8回

ユニットケア 全国セミナー

— 現場が動き、現場で変える

「利用者のその人らしい暮らし」—

趣旨

ユニットケアが誕生した背景には、「これが生活の場といえるのか…?!」という現場からの問題提起がありました。そして1999年秋、「その人らしさが入口で、出口は地域」を合言葉に、第1回目のユニットケア全国セミナーが開催されたのです。

その後ユニットケアは、全室個室とセットで制度化され、入居する高齢者のその人らしさを追及した生活支援の拠点として、生活の質を高めるために日々取り組んでまいりました。また、高齢者の分野だけではなく、しょうがい者や子どもの分野においても、全国各地で広がりを見せています。

このたびの介護保険法の改正では、大規模施設を地域に分散してユニットケアを整備する小規模特養などが「地域密着型サービス」として位置づけられ、利用者は日常生活圏域内の施設を利用するとともに、施設運営に地域住民が参加するなど、地域社会との連携が重要視されています。

第8回目の今回は、利用者の暮らしに焦点をあてた職員研修プログラムの開発やケアプランの作成方法などの議論を深めるほか、利用者の視点からユニットケアを考えていきます。また、原点に戻ってユニットケアの問題点を明らかにし、今後取り組むべき方向とその可能性について議論することを目的に開催します。

テーマ

1. ユニットケアで、利用者の暮らしはどのように変わったのかを報告します。
2. 施設同士の連携・協働活動で、育ちあい・育てあうユニットケアの実践を紹介します。
3. 利用者の視点から、今後ユニットケアはどのように進めていくのかを議論します。

期 日 2006年7月1日(土) 12:00 ~ 2日(日) 15:10

会 場 三重県営サンアリーナ
〒516-0021 三重県伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4
TEL (0596)22-7700

主 催 「第8回ユニットケア全国セミナー」実行委員会

時 間	内 容															
12:00~12:30	開 会															
12:30~13:40	<p>ユニットケアへの誘い「ユニットケアの本質と利用者の暮らし」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の暮らしに寄り添い、試行錯誤の中から築きあげてきたユニットケア。ここでは、ユニットケアにどのように取り組み、その結果、利用者の暮らしはどのように変化したのかを、丁寧に紹介します。 <p>◇パネラー</p> <table border="0"> <tr> <td>【特養】花みづき寮(群馬県)</td> <td>介護主任</td> <td>中 山 好</td> </tr> <tr> <td>【特養】岐阜県立飛騨寿楽苑(岐阜県)</td> <td>リーダー</td> <td>中 村 恵 子</td> </tr> </table> <p>◆コーディネーター</p> <table border="0"> <tr> <td>和歌山大学システム工学部</td> <td>教 授</td> <td>足 立 啓</td> </tr> </table>	【特養】花みづき寮(群馬県)	介護主任	中 山 好	【特養】岐阜県立飛騨寿楽苑(岐阜県)	リーダー	中 村 恵 子	和歌山大学システム工学部	教 授	足 立 啓						
【特養】花みづき寮(群馬県)	介護主任	中 山 好														
【特養】岐阜県立飛騨寿楽苑(岐阜県)	リーダー	中 村 恵 子														
和歌山大学システム工学部	教 授	足 立 啓														
13:40~14:00	休 憩															
14:00~15:40	<p>報告「三重発・明日から始める！ ユニットケアのための職員研修プログラム」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ユニットケアの実践施設の大きな悩みは、職員をどう育てるかということ。三重県内の施設が2年間にわたり実践し、積み上げてきた職員研修プログラムを披露します。 <p>◇パネラー</p> <table border="0"> <tr> <td>【老健】さくらんぼ(三重県)</td> <td>理 事 長</td> <td>久 野 美 文</td> </tr> <tr> <td>【特養】双寿園(三重県)</td> <td>園 長</td> <td>大 田 京 子</td> </tr> <tr> <td>【特養】大台共生園(三重県)</td> <td>介護課長</td> <td>大 村 みち代</td> </tr> </table> <p>◆コーディネーター</p> <table border="0"> <tr> <td>季刊・痴呆性老人研究</td> <td>編 集 長</td> <td>泉 田 照 雄</td> </tr> </table>	【老健】さくらんぼ(三重県)	理 事 長	久 野 美 文	【特養】双寿園(三重県)	園 長	大 田 京 子	【特養】大台共生園(三重県)	介護課長	大 村 みち代	季刊・痴呆性老人研究	編 集 長	泉 田 照 雄			
【老健】さくらんぼ(三重県)	理 事 長	久 野 美 文														
【特養】双寿園(三重県)	園 長	大 田 京 子														
【特養】大台共生園(三重県)	介護課長	大 村 みち代														
季刊・痴呆性老人研究	編 集 長	泉 田 照 雄														
15:40~16:00	休 憩															
16:00~18:00	<p>特別シンポジウム「選ばれるユニットケア施設となるために」 ～ユニットケアは利用者からどう見られているか～</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者主体という理念は、どこの施設でも掲げられているが…実態はお題目になっていませんか。利用者や地域住民の視点からユニットケアを考え、一人ひとりがイキイキと暮らせる今後のあり方について議論します。 <p>◆シンポジスト</p> <table border="0"> <tr> <td>南部町(鳥取県)</td> <td>町 長</td> <td>坂 本 昭 文</td> </tr> <tr> <td>大牟田市認知症ケア研究会(福岡県)</td> <td>代 表</td> <td>大 谷 るみ子</td> </tr> <tr> <td>特養ホームを良くする市民の会</td> <td>理 事 長</td> <td>本 間 郁 子</td> </tr> <tr> <td>住民流福祉総合研究所</td> <td>所 長</td> <td>木 原 孝 久</td> </tr> </table> <p>◆コーディネーター</p> <table border="0"> <tr> <td>福祉と医療、現場と政策をつなぐえにしネット</td> <td>志の縁結び係</td> <td>大 熊 由紀子</td> </tr> </table>	南部町(鳥取県)	町 長	坂 本 昭 文	大牟田市認知症ケア研究会(福岡県)	代 表	大 谷 るみ子	特養ホームを良くする市民の会	理 事 長	本 間 郁 子	住民流福祉総合研究所	所 長	木 原 孝 久	福祉と医療、現場と政策をつなぐえにしネット	志の縁結び係	大 熊 由紀子
南部町(鳥取県)	町 長	坂 本 昭 文														
大牟田市認知症ケア研究会(福岡県)	代 表	大 谷 るみ子														
特養ホームを良くする市民の会	理 事 長	本 間 郁 子														
住民流福祉総合研究所	所 長	木 原 孝 久														
福祉と医療、現場と政策をつなぐえにしネット	志の縁結び係	大 熊 由紀子														
19:00~20:30	懇親会(鳥羽シーサイドホテル)															

時間	内容															
10:00～12:00	<p>第1分科会「進化するユニットケアのケアプラン」</p> <p>● その人らしい暮らしを支援するための「ユニットケアのケアプラン」がいま注目を集めています。良いケアプランは、現場に気づきをもたらし、豊かな関係を生み出します。関心のある方は必見の分科会です。</p> <p>◇パネラー</p> <table border="0"> <tr> <td>【特養】鷹栖さつき苑(北海道)</td> <td>施設長</td> <td>波 瀧 幸 敏</td> </tr> <tr> <td>【特養】さくら園(三重県)</td> <td>主任生活相談員</td> <td>金 谷 龍太郎</td> </tr> <tr> <td>【特養】いずみの園(大分県)</td> <td>特養事業部長</td> <td>岩 崎 深 雪</td> </tr> <tr> <td>認知症介護研究・研修東京センター</td> <td>主任研究主幹</td> <td>永 田 久美子</td> </tr> </table> <p>◆コーディネーター</p> <table border="0"> <tr> <td>季刊・痴呆性老人研究</td> <td>編集長</td> <td>泉 田 照 雄</td> </tr> </table>	【特養】鷹栖さつき苑(北海道)	施設長	波 瀧 幸 敏	【特養】さくら園(三重県)	主任生活相談員	金 谷 龍太郎	【特養】いずみの園(大分県)	特養事業部長	岩 崎 深 雪	認知症介護研究・研修東京センター	主任研究主幹	永 田 久美子	季刊・痴呆性老人研究	編集長	泉 田 照 雄
【特養】鷹栖さつき苑(北海道)	施設長	波 瀧 幸 敏														
【特養】さくら園(三重県)	主任生活相談員	金 谷 龍太郎														
【特養】いずみの園(大分県)	特養事業部長	岩 崎 深 雪														
認知症介護研究・研修東京センター	主任研究主幹	永 田 久美子														
季刊・痴呆性老人研究	編集長	泉 田 照 雄														
	<p>第2分科会 「質の向上を目指す! 施設同士のネットワークで進め深めるユニットケア」</p> <p>● 「言っていることと、やっていることが違っていませんか?」施設同士がネットワークを組んで行った相互研修での発言です。互いに叱咤激励し、周辺地域にある施設と連携しながら気づきあい、学びあい、高めあうことで、相互に高めあうユニットケア推進のツボを探ります。</p> <p>◇パネラー</p> <table border="0"> <tr> <td>かみかわユニットケア・サテライトケア研究会(北海道)</td> <td>幹 事</td> <td>安 倍 信 一</td> </tr> <tr> <td>京都府老人福祉施設協議会</td> <td>ユニットケア研修企画委員長</td> <td>土 居 正 志</td> </tr> <tr> <td>宮崎県特養ホームユニットケア研究協議会</td> <td></td> <td>山 田 一 久</td> </tr> <tr> <td>特養・老健・医療施設ユニットケア研究会</td> <td>代 表</td> <td>武 田 和 典</td> </tr> </table> <p>◆コーディネーター</p> <table border="0"> <tr> <td>東洋大学ライフデザイン学部</td> <td>教 授</td> <td>渡 辺 裕 美</td> </tr> </table>	かみかわユニットケア・サテライトケア研究会(北海道)	幹 事	安 倍 信 一	京都府老人福祉施設協議会	ユニットケア研修企画委員長	土 居 正 志	宮崎県特養ホームユニットケア研究協議会		山 田 一 久	特養・老健・医療施設ユニットケア研究会	代 表	武 田 和 典	東洋大学ライフデザイン学部	教 授	渡 辺 裕 美
かみかわユニットケア・サテライトケア研究会(北海道)	幹 事	安 倍 信 一														
京都府老人福祉施設協議会	ユニットケア研修企画委員長	土 居 正 志														
宮崎県特養ホームユニットケア研究協議会		山 田 一 久														
特養・老健・医療施設ユニットケア研究会	代 表	武 田 和 典														
東洋大学ライフデザイン学部	教 授	渡 辺 裕 美														

分科会特別企画

※申し込みの際には、分科会番号として5をご記入下さい。

時間	内容									
10:00～12:00	<p>特別討論「ユニットケアを斬る!」 ～ユニットケアという幻想×大逆転の痴呆ケア×パーソンセンタードケア～</p> <p>● 『ユニットケアという幻想』の著者高口光子さんと『大逆転の痴呆ケア』の著者和田行男さん、『パーソンセンタードケア』の翻訳者高橋誠一さんの3人が、ユニットケアの真髄とは何かに鋭く切り込みます。日ごろケアについて悩んでいる方、壁にぶち当たっている方、このセッションを聞いて元気をもち帰ろう!</p> <p>◆討論者</p> <table border="0"> <tr> <td>【老健】ききょうの郷(静岡県)</td> <td>生活リハビリ推進室長</td> <td>高 口 光 子</td> </tr> <tr> <td>【グループホーム】大起エンゼルヘルプ(東京都)</td> <td>クオリティーマネージャー</td> <td>和 田 行 男</td> </tr> <tr> <td>東北福祉大学総合福祉学部</td> <td>教 授</td> <td>高 橋 誠 一</td> </tr> </table>	【老健】ききょうの郷(静岡県)	生活リハビリ推進室長	高 口 光 子	【グループホーム】大起エンゼルヘルプ(東京都)	クオリティーマネージャー	和 田 行 男	東北福祉大学総合福祉学部	教 授	高 橋 誠 一
【老健】ききょうの郷(静岡県)	生活リハビリ推進室長	高 口 光 子								
【グループホーム】大起エンゼルヘルプ(東京都)	クオリティーマネージャー	和 田 行 男								
東北福祉大学総合福祉学部	教 授	高 橋 誠 一								

時 間	内 容																																	
10:00~12:00	<p>第3分科会「しょうがい者や子どもの施設など、地域のさまざまな実践」</p> <p>● ユニットケアの草分けは、子どもやしょうがい者の施設での小舎制や、宅老所での実践です。子どもやしょうがい者の分野のほか、宅老所や制度の枠組みを超えた共生ケアの先駆的な実践を紹介します。</p> <p>◇報告者</p> <table border="0"> <tr> <td>【宅老所】ふるさと(三重県)</td> <td>代 表</td> <td>西 村 さとみ</td> </tr> <tr> <td>【知的更生】れんげの里(三重県)</td> <td>施 設 長</td> <td>柳 誠四郎</td> </tr> <tr> <td>【児童養護】精華学院(三重県)</td> <td>院 長</td> <td>奥 田 治</td> </tr> <tr> <td>【幼老複合】自立共生ひかりの里(三重県)</td> <td>理 事 長</td> <td>多 湖 光 宗</td> </tr> </table> <p>◆コーディネーター</p> <table border="0"> <tr> <td>皇學館大学社会福祉学部</td> <td>教 授</td> <td>萩 吉 康</td> </tr> </table> <p>第4分科会「地域密着型サービスと自治体との協働」</p> <p>● 大規模施設を地域に分散してユニットケアを整備する小規模特養は、地域密着型サービスに位置づけられ、市町村の指定となりました。地域密着型サービスを推進するために、自治体とどのように協働していくのかを学びます。</p> <p>◇パネラー</p> <table border="0"> <tr> <td>【特養】アザレアンさなだ(長野県)</td> <td>施 設 長</td> <td>宮 島 渡</td> </tr> <tr> <td>【特養】第二小山田特別養護老人ホーム(三重県)</td> <td>施 設 長</td> <td>西 元 幸 雄</td> </tr> <tr> <td>下関市社会福祉協議会豊北支所</td> <td>支 所 長</td> <td>山 村 敏 史</td> </tr> <tr> <td>三重県健康福祉部長寿社会室</td> <td>副 室 長</td> <td>西 口 和 之</td> </tr> <tr> <td>滋賀地方自治研究センター</td> <td>副 理 事 長</td> <td>北 川 憲 司</td> </tr> </table> <p>◆コーディネーター</p> <table border="0"> <tr> <td>神戸学院大学総合リハビリテーション学部</td> <td>助 教 授</td> <td>藤 井 博 志</td> </tr> </table>	【宅老所】ふるさと(三重県)	代 表	西 村 さとみ	【知的更生】れんげの里(三重県)	施 設 長	柳 誠四郎	【児童養護】精華学院(三重県)	院 長	奥 田 治	【幼老複合】自立共生ひかりの里(三重県)	理 事 長	多 湖 光 宗	皇學館大学社会福祉学部	教 授	萩 吉 康	【特養】アザレアンさなだ(長野県)	施 設 長	宮 島 渡	【特養】第二小山田特別養護老人ホーム(三重県)	施 設 長	西 元 幸 雄	下関市社会福祉協議会豊北支所	支 所 長	山 村 敏 史	三重県健康福祉部長寿社会室	副 室 長	西 口 和 之	滋賀地方自治研究センター	副 理 事 長	北 川 憲 司	神戸学院大学総合リハビリテーション学部	助 教 授	藤 井 博 志
【宅老所】ふるさと(三重県)	代 表	西 村 さとみ																																
【知的更生】れんげの里(三重県)	施 設 長	柳 誠四郎																																
【児童養護】精華学院(三重県)	院 長	奥 田 治																																
【幼老複合】自立共生ひかりの里(三重県)	理 事 長	多 湖 光 宗																																
皇學館大学社会福祉学部	教 授	萩 吉 康																																
【特養】アザレアンさなだ(長野県)	施 設 長	宮 島 渡																																
【特養】第二小山田特別養護老人ホーム(三重県)	施 設 長	西 元 幸 雄																																
下関市社会福祉協議会豊北支所	支 所 長	山 村 敏 史																																
三重県健康福祉部長寿社会室	副 室 長	西 口 和 之																																
滋賀地方自治研究センター	副 理 事 長	北 川 憲 司																																
神戸学院大学総合リハビリテーション学部	助 教 授	藤 井 博 志																																
12:00~13:00	<p>昼 食・休 憩</p>																																	
13:00~15:00	<p>まとめのセッション 「入口はその人らしさで出口は地域・ユニットケアのこれからを展望する」</p> <p>● 1999年の第1回セミナーでうたわれた「入口はその人らしさで出口は地域」は、ユニットケアが制度化されて5年が経過した現在、どれほどに定着したのか。原点に戻って、今後の方向と可能性を探ります。</p> <p>◆シンポジスト</p> <table border="0"> <tr> <td>【特養】ももやま(京都府)</td> <td>施 設 長</td> <td>山 田 尋 志</td> </tr> <tr> <td>【知的通所】銀河ステーション(熊本県)</td> <td>施 設 長</td> <td>阿 部 るり子</td> </tr> <tr> <td>三重県老人福祉施設協会</td> <td>会 長</td> <td>山 下 雅 一</td> </tr> <tr> <td>特養・老健・医療施設ユニットケア研究会</td> <td>代 表</td> <td>武 田 和 典</td> </tr> <tr> <td>厚生労働省老健局計画課</td> <td>課 長</td> <td>川 尻 良 夫</td> </tr> </table> <p>◆コーディネーター</p> <table border="0"> <tr> <td>東北福祉大学総合福祉学部</td> <td>教 授</td> <td>高 橋 誠 一</td> </tr> </table>	【特養】ももやま(京都府)	施 設 長	山 田 尋 志	【知的通所】銀河ステーション(熊本県)	施 設 長	阿 部 るり子	三重県老人福祉施設協会	会 長	山 下 雅 一	特養・老健・医療施設ユニットケア研究会	代 表	武 田 和 典	厚生労働省老健局計画課	課 長	川 尻 良 夫	東北福祉大学総合福祉学部	教 授	高 橋 誠 一															
【特養】ももやま(京都府)	施 設 長	山 田 尋 志																																
【知的通所】銀河ステーション(熊本県)	施 設 長	阿 部 るり子																																
三重県老人福祉施設協会	会 長	山 下 雅 一																																
特養・老健・医療施設ユニットケア研究会	代 表	武 田 和 典																																
厚生労働省老健局計画課	課 長	川 尻 良 夫																																
東北福祉大学総合福祉学部	教 授	高 橋 誠 一																																
15:00~15:10	<p>閉 会</p>																																	

会場案内図



【定員】 1,200人

【参加費】 15,000円（当日資料代を含む）
※特養・老健・医療施設ユニットケア研究会交流会員につきましては、
1会員お一人様に限り12,000円になります。

【懇親会費】 8,000円

■ 申込に関するお問合せ先 ■

(株)日本旅行仙台団体旅行支店

〒980-0021 仙台市青葉区中央2丁目1-7 三和ビル3階 担当者：岩渕、柳川、関川、荒川

TEL：022-261-4511 FAX：022-222-7570

E-mail：sendai_danryo@nta.co.jp

※受付時間・平日／9：00～18：00 土・日・祝日／休み

■ 内容に関するお問合せ先 ■

「第8回ユニットケア全国セミナー」実行委員会

事務局：特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 担当者：國分、山越

〒981-0954 宮城県仙台市青葉区川平5-3-18-207 (CLC内)

TEL：022-719-9249 FAX：022-719-9251